

ごあいさつ

本日は、戦後 80 年特別企画・喜劇『人類館』(2025 年新演出版) にご来場いただき、ありがとうございます。

知念正真『人類館』は、1976 年にコザで初演され、石垣・宮古公演を経て、78 年に東京で上演される
と、その年に「演劇界の芥川賞」と呼ばれる岸田戯曲賞を受賞しました。沖縄の劇作家の作品が同賞を
受賞するのは初にして、現在に至るまで唯一となっており、まさに戦後の沖縄現代演劇を代表する戯曲
の一つと言えましょう。

今年は戦後 80 年であると同時に、沖縄国際海洋博覧会から 50 年、大阪では再び万博が開催される
という節目の重なる年。この機会に、1903 年、大阪の第 5 回内国勧業博覧会会場近くで開催された「学
術人類館」とその後の「人類館事件」をモチーフに、皇民化教育、沖縄戦、米軍統治とベトナム戦争、
本土「復帰」を織り込んだ『人類館』を上演することで、ご来場の皆様とともに歴史を振り返り、現在
と未来を見つめ直すことができれば幸いです。

差別に遭い、抑圧に苦しみ、迫害に泣く存在とともに書かれた『人類館』は、加害と被害を分断・固定
せず、人間関係は絶えず入れ替わり、時代は行き来し、沖縄口と沖縄大和口、歌と踊りが混じります。
作者の娘である知念あかねさんが「喜劇」と銘打って上演を続けるのは、この作品に描かれた内容が滑
稽だからでしょうか、理不尽を笑うしかないからでしょうか、あるいは「喜劇」として捉えることで、
どこかに希望が見えてくるからでしょうか。

なお、那覇文化芸術劇場なはーとでは、2022 年にも「復帰」50 年特別企画として別演出にて喜劇『人
類館』を上演いたしました。幸いにも上演は多くの御縁につながり、このたび、新演出版は那覇公演後、
国際芸術祭「あいち 2025」で上演されます。開館から 4 年を迎えたなはーとが新しい作品を制作し、
県外の国際芸術祭に招聘されるようになったことは、ひとえに市民の皆様や劇場のお客様に支えていた
だいたお陰であり、深く感謝申し上げます。

結びに、AKN PROJECT 様や、これまで『人類館』の上演史を紡いできた皆様をはじめ、本公演の実現
にご尽力・ご協力いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

那覇文化芸術劇場なはーと

戦後 80 年特別企画

AKN プロジェクト 喜劇『人類館』(2025 年新演出版)

作：知念正真

出演：井上あすか、神田青、仲嶺雄作

演出：知念あかね、新垣七奈

ドラマトゥルク：林立騎 [那覇文化芸術劇場なはーと] 舞台美術：佐々木文美 衣装：藤谷香子 音響プラン：山口剛 [(同) ネクストステージ] 照明プラン：棚原栄作 [(株) エムエルスタジオ] 舞台監督：津嘉山弘 [月光道 (同)] 音響オペレーター：屋比久夏芽 [(株) エスエルアイ] 演出助手：山本舞子 演出部：砂川政秀 音響アシスタント：嘉陽桃瀬 衣裳管理：かもめだかもめ 英語字幕操作：比嘉啓和 バリアフリー字幕操作：渡久地準 大道具製作：(同)みやぎ大道具 小道具協力：玉城琉いづみ会 衣裳製作：梅津佳織、土田寛也 演奏：比嘉啓和（歌三線）、村上佳子（歌三線）、砂川政秀（太鼓）、長濱良起（ギター、ハーモニカ）、上地広季（トランペット）、古堅晋臣（ウクレレ）、新垣七奈（三板）、知念あかね（バイオリン） 沖縄ことば指導：花城清長、上江洲朝男 英訳：金城正樹 イラスト：大白小蟹 宣伝美術：アイデアにんべん バリアフリー字幕デザイン：南部充央 ハラスマント防止研修：植松侑子 制作：AKN プロジェクト・喜舎場梓

那覇文化芸術劇場なはーと

技術統括：岸本智治 制作：土屋わかこ、村上佳子 広報：山上順子 管理運営：那覇文化芸術劇場なはーと 舞台技術：(有)新舞台劇場案内：(株)沖縄コンクレ 託児：すけっと in ナハ

主催：那覇市 共同製作：国際芸術祭「あいち」組織委員会 企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと、AKN プロジェクト、国際芸術祭「あいち」組織委員会